

第5章 振り返り報告会議の実施概要

①今年度の振り返り

2.定性面(商品開発、県外講師、相互ツアー、旅行会社マッチング).

商品開発支援 **未実施**

メニュー名:

研修時期:

実施後の変化について

-参加された方の変化



-島あっちいでのトライアルについて



県外講師:上田 嘉通

メニュー名:稼いで地域に投資する
あたりまえができていない観光まちづくり

研修時期:12月10日

実施後の変化について

-参加後のコーディネーターご自身の変化



相互ツアー:知念様(宿泊事業社)

訪問先:渡嘉敷島

訪問時期:12月10日・11日

実施後の変化について

-参加後の参加者ご自身の変化



-新しく始めた取り組みや工夫について



旅行会社マッチング **未実施**

旅行会社:

訪問時期:

実施後の変化について

-今後の販売状況についての確認

14

第二部

残り2年の自走化に向けたロードマップの内容すり合わせと

15

第5章 振り返り報告会議の実施概要

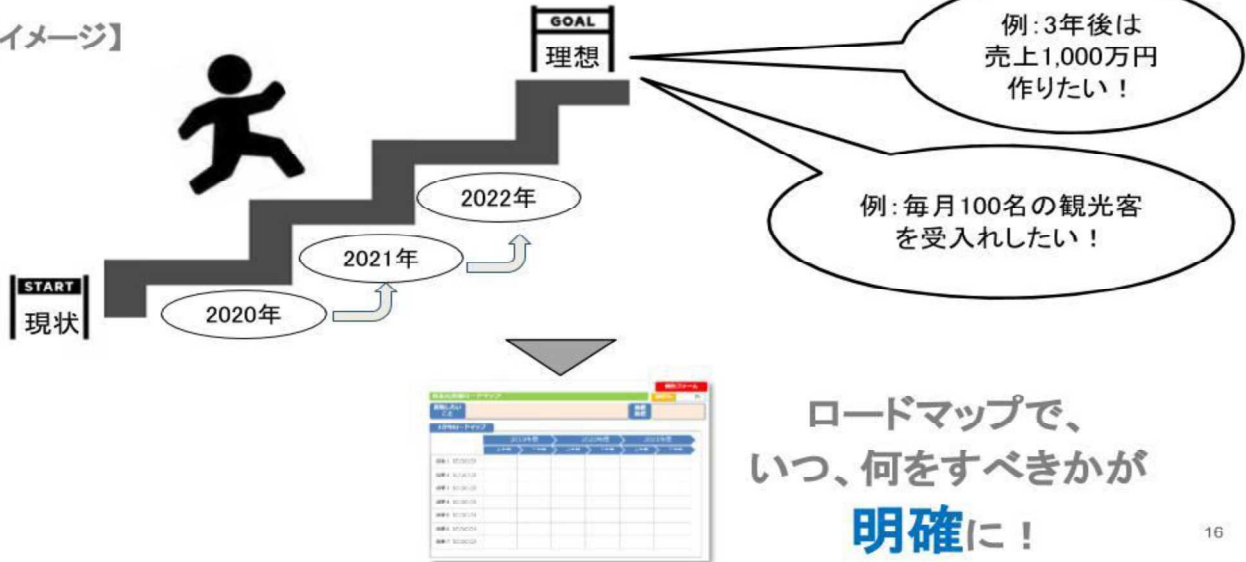
②残り2年の自走化に向けたロードマップの内容すり合わせと合意形成

1.ロードマップについての説明

■ロードマップとは？

- ・将来の目標を達成する為の計画を、時系列にまとめた表のことです。
- ・目標達成や商品開発を実現したい際に活用される方法です。
- ・計画が見える化することで、目標の達成確率を高めることが可能となります。

【イメージ】



16

②残り2年の自走化に向けたロードマップの内容すり合わせと合意形成

2.プロマネによるロードマップの目標確認

3か年ロードマップ	3年後の目標						数値目標
	2019年度		2020年度		2021年度		
	4~9月	10~3月	4~9月	10~3月	4~9月	10~3月	
戦略	[Yellow arrow pointing right]						
①売上目標	[Orange arrow pointing right]						
②数値指標	[Orange arrow pointing right]						
③観光商品作り	[Orange arrow pointing right]						
④ファン獲得と情報発信	[Orange arrow pointing right]						
⑤商品販売	[Orange arrow pointing right]						

17

※適宜、中間点検を実施し、進捗状況に合わせて見直しを図ります。

第5章 振り返り報告会議の実施概要

第三部 次年度に向けたモニターツアーの準備

18

③次年度に向けたモニターツアーの準備

R2年度の事業テーマは「自走化に向けた取捨選択」

R1年度に策定した各離島のロードマップの実行フェーズへ。

自走化に向けて何を優先し、何を捨てるかを離島毎に見極め、優先順位を持って自走化を推進する。

離島に残すべき資産＝自走化の考え方の徹底。



19

第5章 振り返り報告会議の実施概要

③次年度に向けたモニターツアーの準備

1.米期の島あっちいの変更点

変更点	今年度 R01	来年度 R02	影響
沖縄県の補助	4割	5割	・参加者の自己負担額が「増」=エントリー数の「減」が予測される → 最少催行人員未達のツアーが増える可能性あり
全体の送客人数	3000名	2200名	・参加者目線で、より魅力的なツアーや体験を厳選しての応募が予測される → 売れる商品を意識してツアー造成をする必要がある

来年度の大きな変更点を踏まえて、来期は下記のポイントが重要となります。

①体験プログラム

「一点突破型」の商品で、確実に応募を募れるようなツアー造成が理想。
参加者に「他のツアーと比べて、○○のツアーに参加したい」と思ってもらふ事。

②催行日

過去の応募傾向からも週末出発を中心にツアー造成を意識したい。
但し、平日催行したい場合は戦略的にターゲットやツアー内容を工夫する必要がある。

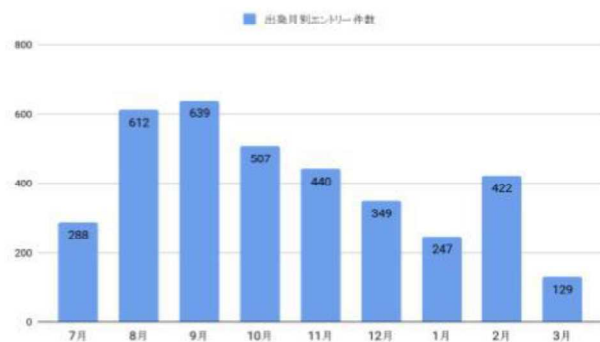
③最終的な販売価格を意識

自己負担額が増える為、1泊2日の費用を抑えたツアーが人気が高くなる可能性あり。
2泊3日と1泊2日のツアーも交互に造成して反応を見たり、体験プログラム数を減らしてフリータイムでオプションとして案内する等の工夫が必要です。

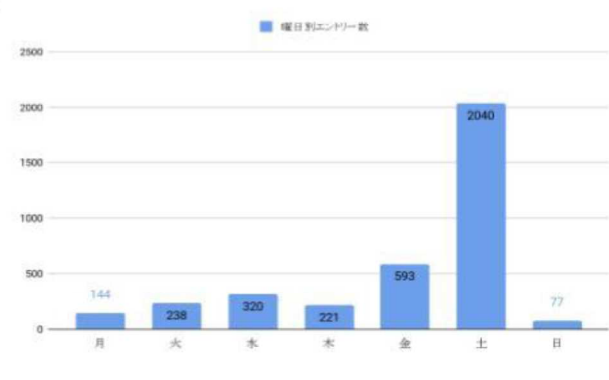
20

③次年度に向けたモニターツアーの準備 ※今年度の応募傾向 集計期間:2019/6/3~2020/1/29 総応募件数:3633

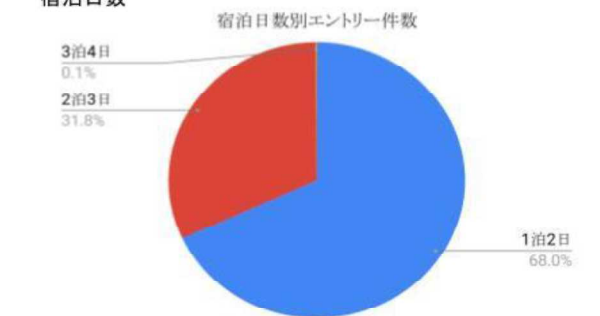
出発月別のエントリー状況



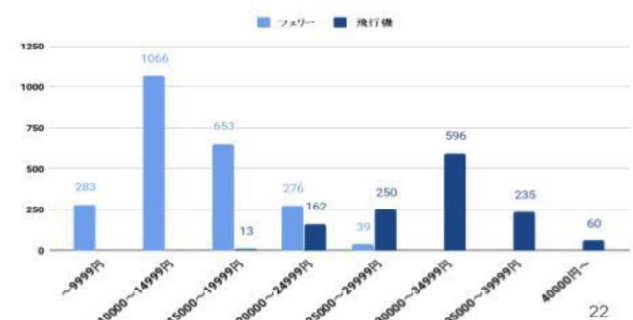
出発曜日別のエントリー状況



宿泊日数



価格帯別エントリー数(フェリー/飛行機)



22

第5章 振り返り報告会議の実施概要

③次年度に向けたモニターツアーの準備

来年度の自走化支援施策(案)のヒアリング

案	目的	上位3つに1,2,3の優先番号を記入	ご意見
旅行会社マッチング	自主販売		
相互ツアー	離島間相互研修		
県外講師講演会	県外の離島振興事例研修		
商品開発支援	新規観光商品開発		
ツーリズムエキスポ沖縄で直接商談 ※旅行業界の展示会で、県外/海外からの旅行会社バイヤー等が訪れる場所	自主販売		
県外の離島への訪問研修	県外の離島振興事例研修		
WEBサイトの販売ノウハウ研修	稼ぐ力の向上		
島あっちい成果発表会(那覇開催) ※島あっちい関係者のみ	他離島の取り組みの気づき		
島あっちい成果発表会(那覇開催) ※過去に島あっちい参加した方も参加	島あっちいファンとの交流 リピーター獲得		
アンケート結果、満足度をWEBで公開	各離島の競争力向上		

その他要望(事務局/旅行会社)

第5章 振り返り報告会議の実施概要

第3項 各離島の振り返り内容

離島名	伊平屋島
議題①：今年度の振り返り（定量面と定性面）	<ul style="list-style-type: none"> ・「内容・プログラム」「おもてなし」については高評価だった。 ・今年度新しく造成した「賀陽山登山」のツアーについて、内容については「4.75」と良い数値だが、妥当な参加人数「4.5」、安全面「4.6」と低めの数値になっている為、適切に案内が行き渡るガイド体制と人数構成になるよう検討する。
議題②：自走化についてのロードマップ策定	<ul style="list-style-type: none"> ・伊平屋の強みを活かせるよう、「アドベンチャーツーリズム×民泊」を軸として、伊平屋島の観光を売り出していきたい。（体験型観光と民泊での島民交流の強みが相乗効果となる。）
議題③：次年度の意向について	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度実施した伊是名島と伊平屋島の2島周遊ルートについて、満足度が高いツアーとなった。次年度での継続にあたり、自走化を観点に2島周遊ルート実施体制の土台作りを行う必要がある。 ・次年度、観光協会にて船を購入予定であり、マリン体験造成の幅が広がる（ボートシュノーケル、釣り、サンセットクルーズ、野甫島と具志川島を組み合わせた無人島へのアイランドホッピング、スキndaイビング、等）ため、次年度ではマリン体験プログラムを多く造成し、モニターツアーにて実施する。 ・来年度、田名集落の散策を新規体験プログラムとして造成予定。

離島名	伊是名島
議題①：今年度の振り返り（定量面と定性面）	<ul style="list-style-type: none"> ・7月～9月に地域の祭りやマリン体験を中心としたプログラムを造成し、前年度と比べ造成本数・送客数共に大幅に増加した。 ・満足度については、どの項目においても軒並み全体平均より高い数値となっている。参加人数が多いかつ満足度が高い結果となった。
議題②：自走化についてのロードマップ策定	<ul style="list-style-type: none"> ・明確に「企業インセンティブ旅行誘致」の方向に舵を切りたい。FIT対応は協会のリソース的に難しいため、大人の団体受入れを意識していきたい。体験型に加え、教育旅行で評価の高い民泊を取り入れていきたい。 ・ツアー1本商品化することを条件に、旅行社を招集し、ツアーの販売化を行いたい。
議題③：次年度の意向について	<ul style="list-style-type: none"> ・2年前に催行していた大人民泊のツアーも実施。一般受入れ可能な民家が5件程ある。 ・ロードマップに則り、一般の受け入れを拡大に向けて進めていく。 ・TVドラマ放映後のため、前半は歴史や尚円王のイメージ推しで進めていきたい。 ・YouTuberの神山兄弟のツアーは、次年度も3回程、造成予定。8/4にウンナーも1回予定（勢理客区／40名）。 ・HY マリンでは新たにグラスボートを購入、4月頃到着予定。マリン体験プログラムを中心に新規体験プログラムを造成していく。

第 5 章 振り返り報告会議の実施概要

離島名	水納島
議題①：今年度の振り返り（定量面と定性面）	<ul style="list-style-type: none"> ・前年度と比べて今年度はモニターツアーを減らし、結果、催行率の向上、送客数の増加に繋がった。 ・人口減少が要因となり、モニターツアー参加者と島民との交流機会がないため、モニターツアー参加者から島民との交流を希望する声が多いことから、ツアー満足度に影響が出ている。 ・内容・プログラムの質が全体平均と比較し低い数値となっている。
議題②：自走化についてのロードマップ策定	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度はコーディネーター都合により事業途中でモニターツアーの実施が出来なかった為、ロードマップが未作成となっている。次年度に改めて策定予定。
議題③：次年度の意向について	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度のモニターツアー実施について、コーディネーター都合により、11月迄の実施となったが、次年度は例年通り、10月後半から2月後半まで実施を予定している。

離島名	伊江島
議題①：今年度の振り返り（定量面と定性面）	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は担当コーディネーターの離職により2月まで受入不可となっていたが、事務局職員が出向したことで年度末にモニターツアーを4本造成することができた。 ・事業者のコーディネーターとしての育成を行い、WEBサイトのノウハウ研修を事業者向けに実施したい。また、相互ツアーを活用し、他の離島の実施事例も学びたい。 ・別事業にて観光客へ「牛のセリ」を見せたところ好評だった為、島あっちい事業にて日常体験の観光商品化していく。 ・島の特徴を活かした商品開発を行うため、観光協会関係者にて、体験プログラムのアイデア出しを行う場を設けたい。
議題②：自走化についてのロードマップ策定	<ul style="list-style-type: none"> ・民泊事業者の育成に力を入れていき、民泊のレベルを向上させたい。具体的には、島内民泊事業者の観光客受入時の対応について、全体的な平準化を図り、相互教育が出来る仕組みの構築や話し方、伝え方の講習を実施したい。 ・民泊については「STAYJAPAN」などOTAでの外部販売化を目指していく。 ・島あっちい造成したツアーを、旅行会社とのマッチング事業を活用し、まずは一つパッケージ化することを目標としたい。 ・マリン体験について、漁業組合やダイビング協会会員など、事業者が複数あるが、夏シーズンであってもピークには達していない。近場に水納島がある為、差別化を考えなくてはならない。マリン体験後、宿泊できるような体験を考えたい。 ・民泊の家業体験をホームビジット体験として販売していきたい。実績を強みとして発信出来るような仕組みを創りたい。 ・現状、観光協会のWEBサイトが集客ツールとなっており、SNSを活用した情報を行っていきたいが、人材不足が原因となり、取り組むことができない状況となっている。
議題③：次年度の意向について	<ul style="list-style-type: none"> ・事業始め（4月）に事業者説明会を実施し、参加事業社の中から、夏シーズンに実施するモニターツアーの体験プログラムを選定し、ツアー造成を行う。 ・修学旅行でもコロナ影響で売上が落ちていることもあり、次年度は積極的にツアー造成を行いたい。

第5章 振り返り報告会議の実施概要

離島名	渡嘉敷島
議題①：今年度の振り返り（定量面と定性面）	<ul style="list-style-type: none"> ・実質、全離島の中で満足度が1番高いことは自信になった。 ・昨年度は実施しなかった「平日」「少人数」の受け入れを今年度で実施したことで、新たな可能性を得ることができた。次年度も「大人数」「週末」の受け入れに加え、「平日」「少人数」の受け入れを組み入れていきたい。
議題②：自走化についてのロードマップ策定	<ul style="list-style-type: none"> ・現状として渡嘉敷島に訪れる観光客の多くは海を訪れることが目的となっているため、海以外の魅力を発信したい。 ・渡嘉敷島では島内及び島周辺の環境問題があり、島の存続が危ぶまれている。島の存続を目指すべく、環境保全にも力を入れたい。 ・地域（観光協会）とコーディネーターの連携をすることで島全体への波及効果が大きくなるため、相互間連携を強めていく。 ・粟国島での子供達をガイドとして活躍させることができた事例は参考にしたい。 ・今年度渡嘉敷島にて実施した料理講習会をきっかけに、次年度では渡嘉敷島のマグロを活用した商品開発を行っていく。今後の展開としては渡嘉敷島のマグロを活用したブランディング戦力を行っていく。
議題③：次年度の意向について	<ul style="list-style-type: none"> ・5月後半よりモニターツアーの応募情報を掲載予定。 ・次年度では長期滞在となる3泊4日のモニターツアーを試験的に実施する。 ・次年度では農業体験プログラム(稲まきから収穫)を造成していく。また渡嘉敷島で行われている綱引きの綱は島の稲わらを使用して作られており、体験者に稲まきから綱作りまでの工程を体験プログラムとして造成したい。体験終了後、事業者と体験者間で関係性を保つことのできる仕組みを行いたい。

離島名	座間味島/阿嘉島/慶留間島
議題①：今年度の振り返り（定量面と定性面）	<ul style="list-style-type: none"> ・阿嘉島のコーディネーターの都合により、座間味島のコーディネーターが阿嘉島を兼任で担当した。次年度についても同様の体制で運営していく。 ・前年度と比べると送客人数が2島あわせて120人から71人と減少する結果となった。しかし造成したツアー12本の内、最少催行人数未達で不催行となったものは1ツアーのみであり、ホエールウォッチングは人気プログラムとなり、安定したエントリーを獲得する事が出来た。 ・ホエールウォッチングに加え、今年度、モニターツアー参加者からの満足度が高かった体験プログラムのセットプランを造成していく。
議題②：自走化についてのロードマップ策定	<ul style="list-style-type: none"> ・最終振り返り会にてロードマップについて大まかな内容を確認。次年度にて具体的な数値目標を決めていく。 ・座間味島の課題として人材不足が挙げられる。実際に座間味島で働きたいという人はいるが、宿の問題がある為、島外からの受け入れが出来ない状況にある。 ・前年度の商品開発エコガイド講習がきっかけとなり造成した体験プログラム『集落散策』や2年前に実施していた『釣り体験』を次年度では造成、実施していきたい。
議題③：次年度の意向について	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度6月については阿嘉島で1～2本造成する見通し。12月開催については、事業者やエコガイドに参加して頂いた方を早いうちに呼び込み、ツアーを造成していく。7～11月頃は民泊事業が繁忙期の為、島あっちい事業を実施出来ない。 ・モニターツアーでの交流会を、夜間に実施すると、宿や村民に負担がかかるため、昼食時、もしくは体験プログラム実施に併せて交流会の機会を作る。 ・自走化支援について、離島間相互ツアーの参加や県外離島訪問研修を強く希望。

第 5 章 振り返り報告会議の実施概要

離島名	栗国島
議題①：今年度の振り返り（定量面と定性面）	<ul style="list-style-type: none"> 島の受け入れのキャパシティの上限調査の為、各月毎で限界までツアー造成を行ったが、ツアー未催行が多くあったため、送客率を上げる事が出来ず、結果、受入のキャパシティの上限を知ることが出来なかった。 前年度までにはなかったマリン体験プログラムを実施。その結果、参加者の満足度が高いという評価を得ることができた。
議題②：自走化についてのロードマップ策定	<ul style="list-style-type: none"> 島あっちい事業を通して人材育成に力をいれていきたい。 地域おこし協力隊も参加させたい。 フェリーの欠航率が高いため、ヘリコプターを活用し、確実にツアーが催行できる体制にしていきたい。
議題③：次年度の意向について	<ul style="list-style-type: none"> 40 ツアー造成。250 名受け入れ目標。 渡名喜島、栗国島間での周遊ツアーを実施したい。 観光協会と地域おこし協力隊で連携し、同日発で 2 つのツアー実施を目標とする。 ツーリズムエキスポに栗国島単体での出展はできないが、島あっちいとして出展することができれば、島から担当者として 1 名は派遣できる。 人口規模が同規模の離島へ視察にいきたい。（人口基準） 花についての講習があれば受講したい
離島名	渡名喜島
議題①：今年度の振り返り（定量面と定性面）	<ul style="list-style-type: none"> 前年度よりツアー本数は 29 本と前年の 24 本を超える造成状況となっており、応募状況についても、金曜日開催のツアーでも、最少催行未達になることはほとんどない結果となった。 宿泊施設について、平均 3.1 点と低い点数になっているため、宿泊施設に改善するよう依頼。引き続き改善依頼を行う。 フリータイムのプログラム造成について、マリン体験プログラムも造成したいが、対応できる人材がいない。 今後の課題として、観光客の島内の移動手段が、自転車レンタル(台数：5 台)のみとなっていることが挙げられる。
議題②：自走化についてのロードマップ策定	<ul style="list-style-type: none"> エントリー率が非常に高い為、モニターツアーの平日開催を行い、宿のキャパシティを出来る限り使い切る事と、客単価を上げることで、売上増加を計る方針をとっていく。 SNS について、2020 年 2 月現在、Instagram：576 名 Facebook：8,462 名のフォロワーを獲得している。自走化に向けて情報発信のチャンネルを持っていることは重要なポイントとなる。LINE の活用を行っていないので、モニターツアー参加者に向けて、グループ LINE を作ることをご提案し、検討する。
議題③：次年度の意向について	<ul style="list-style-type: none"> 現状 6 月は島内のイベントが沢山あり、もちきびの収穫時期とも重なる事や、離島体験もあるので、島あっちい事業の実施は難しい。 ツアー造成は自体は引き続き、安定的にツアー造成を行っていく。

第5章 振り返り報告会議の実施概要

離島名	津堅島
議題①：今年度の振り返り（定量面と定性面）	<ul style="list-style-type: none"> ・前年度ツアー造成本数 33 本に対し、今年度はツアー造成本数 15 本、実施 2 本の結果となった。9 月から 1 月は台風の影響で宿が破損した為、ツアー中止となった。2 月にツアーを造成したものの、全て平日開催のため、エントリーが入らなかった。 ・満足度はツアー・プログラム共に非常に高い状況となっている。現状、コーディネーターが一人で、全てのプログラムや受け入れ準備を行っているため、負担がかかっている。安定感のあるツアーを実施するには、もう 1 名分の人材を確保したい。
議題②：自走化についてのロードマップ策定	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な売上目標数値を設定。月 3 回程度受け入れをすれば達成できる見込み。 ・認知度は高いので、Facebook 以外の予約受付は行わない。知名度が高い宿泊予約サイトからも、掲載依頼が来ているが、断っている状況。理由としては、ボタン一つで予約完了出来るが、逆にその手間の無さが、お客様の質の低下、もしくはクレーマーと出会う確率を高めていると考える為。
議題③：次年度の意向について	<ul style="list-style-type: none"> ・島あっちのツアーについては月 2 本ペースにて造成を進めていく予定。 ・現在、耕作放棄地を復活させる取り組みを実施しており、島あっちのプログラムでも、農業体験プログラムとして取り入れていきたい。早ければ 10 月頃から実施出来る見込み。

離島名	久米島
議題①：今年度の振り返り（定量面と定性面）	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は 1 組限定ツアープランをメインに造成を行った。 ・観光協会内の体制が整わない状況でスタートしたことにより、前年度より受入れ人数が減少した。お客様の中には、島あっち事業の趣旨を理解していない方の参加が見受けられ、「離島ならどこでもよかった」「ただ来たかっただけ」と、受入側とのミスマッチ発生。沖縄本島の方に同じ沖縄の事を説明するのは受入側としても工夫が必要。 ・民泊の満足度が高く、今後もレベルを保ちながら提供していく。
議題②：自走化についてのロードマップ策定	<ul style="list-style-type: none"> ・久米島観光協会の島あっち事業への参画の現状として、組織強化の中、観光協会内の作業量が多く、採算が取れていない現状にある。 ・人材育成の観点から、コーディネーターしか把握していない事業の進め方に不満。 ・次年度は 島あっち事業を久米島町観光協会 ⇔ NPO 法人くめじま ⇔ 事業者・民家 の連携体制で行う。 ・観光協会の体験プログラムも盛り込んだ形で進める。島の若い事業者で島あっち事業へ参画意思のある者がいる。次年度では若い事業者の体験プログラムをモニターツアーにて試験的に実施していく。
議題③：次年度の意向について	<ul style="list-style-type: none"> ・新規観光商品開発または、ツーリズムエキスポで直接販売を目指す。 ・WEB サイトの販売ノウハウを学ぶ。 ・県外離島への訪問研修に参加する。 ・6 月催行可能。初期は馬牧場、ホテル館、ウエディングのプログラムメインで造成スタート。